



託北だより「あすなろ」No.31

「和」～敬・愛・信～

令和6年9月20(金)
熊本市立託麻北小学校
文責：小倉 秀俊



HPコード

本日 通知表をお渡ししました

本日、前期の通知表をお渡ししました。通知表は、お子様の学習の成果や生活等の取り組みについて保護者の皆様にお知らせするとともに、今後の学習意欲を高めたり、自己理解を促し一人一人の可能性を伸ばしたりすることをねらいとしています。

前期の通知表には、4月から9月末までの評価や記録を記載しています。後期の通知表には、前・後期の評価、学年の評定や記録、修了証をすべて記載して、一年間の総括的な評価として修了式日(6年生は卒業式前日)にお渡しします。

なお、通知表に、評価の見方等についての説明が記載してありますので、ご確認をお願いします。また、ご家庭でも、評価の内容を踏まえて、“これからどのように取り組んでいくとよいか”についてお子さんとお話しいただき、アドバイスとともに励ましの言葉を掛けてあげてください。



☀️この度、肥後銀行様の「ひぎん SDGs 私募債 発行記念事業」として、タイコーテクノニクス様ご指定により、プロジェクター他ICT付属品を贈呈していただきました。プロジェクターは、特に集会等で子どもたちの発表に使う必需品です。これまで使っていた機械の調子が悪く、とても困っていたところでしたので、大変ありがたく感謝しております。

贈呈式は、9月11日(水)に校長室で行いました。その中で、本校の卒業生でもあるタイコーテクノニクス社長の田上貴仁様から、「子どもたちには他人に助けられる人になって欲しい。教育は世の中を変える力がある。」というお言葉をいただきました。また、お礼の言葉を、計画委員長の赤星陽斗さんが立派に述べてくれました。これから大切に活用させていただきます。



☀ 「スマホ脳」

9月12日の児童集会で、保健委員会の子どもたちが、1学期に実施した第1回学校保健委員会の内容を、参加していなかった3年生以下の子どもたちのために、クイズ形式でわかりやすく紹介してくれました。スマホをはじめとした電子媒体の使い過ぎによって起こる可能性のある体への影響は、切実な問題です。



それに関して、世界的にベストセラーになった「スマホ脳」という本を思い出し、再度読んでみました。スウェーデンの精神科医が、様々な調査をもとに、スマホの影響について分かりやすく解説している本です。

その中で、印象に残っているのが、スマホを使い過ぎた場合、集中力の低下を招くということです。スマホを開けば、あらゆる情報が瞬時に目に入ってきます。そこには、必要な情報以外の内容が含まれ、ついつい見てしまいます。また SNS を利用していると、知り合いからの着信音が時を選ばず鳴ります。鳴らずとも常に気になります。

人間の脳は、情報を欲しており、それを得ることでドーパミンという脳内物質が出され、満足感を得ることができそうです。これは、太古からの脳のシステムで、人間が生きていくために備わったものです。しかし、スマホのように四六時中情報をもたらすと、脳が弱り、集中力が低下する恐れがあるそうです。また、よくやりがちですが、寝る直前にスクリーンを見たり枕元おいたりすると、これまた落ち着かず、睡眠の妨げになるようです。

今やスマホをはじめとしたデジタル媒体は必需品です。特に、災害時には大切な情報源や伝達手段となります。「スマホ脳」の著者は、巻末の中で、時間を決めて使うなど、スマホに依存しない使い方を推奨しています。また、子どもたちの集中力を高め、脳を活性化させる一番の方法は、体を動かすことだそうです。

託麻北の子どもたちは、外遊びが大好きです。2学期も、熱中症に気をつけながら、元気に体を動かしてほしいです。

コーヒーブレイク



秋の味覚と言えば「栗」です。栗きんとんや栗ようかんなどのスイーツとして、あるいは栗ご飯など主食としてなど、いろいろな食べ方があります。さて、日本人になじみの深い「栗」。いつ頃から食べられていたかと言いますと、なんと、縄文時代からだそうです。有名な青森の「三内丸山遺跡」には、栗を栽培した後が残っていたようです。栗は保存が効き、ビタミンなどの栄養も豊富で、貴重なエネルギー源として重宝されてきました。まだまだ、残暑が厳しいですので、冷やしたモンブランをいただきたいと思います。



横山忠克先生作